



SUSTAINABILITY REPORT 2026

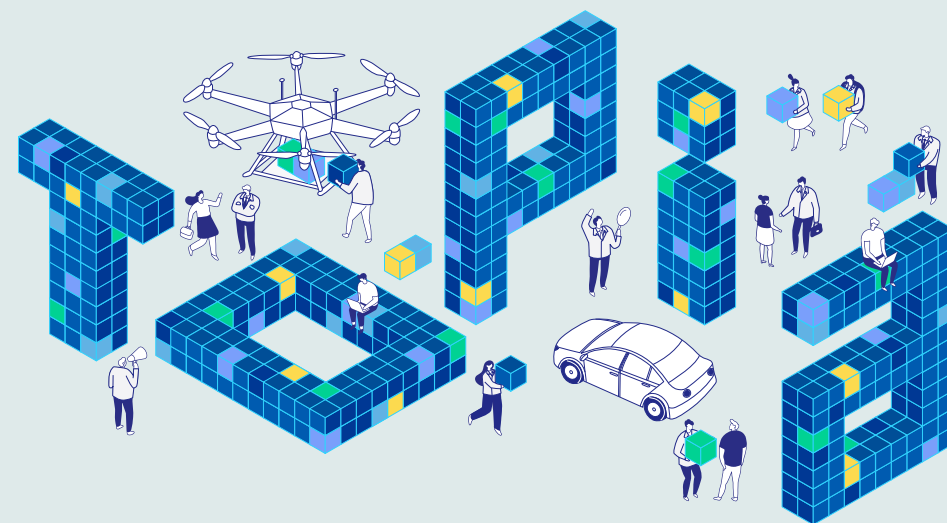
サステナビリティレポート 2026

PURPOSE

豊かな未来の実現に向けて 変化・要求に挑戦し続けます

「2050年カーボンニュートラル」の実現、さらにはその先の未来へ向けて…。

トピアグループは、豊かな未来の実現に向け、ステークホルダーの皆様との共創を図るとともに、環境・人・社会の変化と要求に自覚と責任を持ち、サステナビリティ経営を加速させていきます。



経営理念

野鳩の精神

救急病院の
責任感チャレンジ
精神

野鳩の精神

野鳩の精神で積極経営を…

野鳩は 囲いの中で保護され 与えられるエサを待っている鶏とは違い
常に広く エサを求めて 自由に大空をはばたく
自らの目と足で 生き抜く活力をみつけ出し 新しい価値の創造を成す

救急病院の責任感

顧客優先の精神に徹し 緊急を要する時にも 受入れ態勢万全を常とする
どんな不可能と思われる事態でも
可能とする努力を惜しまず 最善を尽くし 信頼を築く

チャレンジ精神

未知への挑戦 卓越するものへの挑戦こそが 明日への飛躍
未経験ゾーンへの突入こそが 未来への突破口であることの認識のもと
全てを勉強と心得て挑戦すべし

CONTENTS

02 編集方針・目次	09 サステナビリティ
03 トピアグループの価値創造	13 環境
03 トピアの事業	16 社会
05 トップメッセージ	23 ガバナンス
07 価値創造モデル	25 サステナビリティデータ(環境・社会)

編集方針

トピアグループを取り巻く外部環境は一層多様化、複雑化し、気候変動による災害の基大化、戦争や貿易問題をはじめとした政情の不安定化など、先行き不透明な状況が継続しています。このような経営環境のもと、本「サステナビリティレポート」が、今後の長期的なトピアグループの成長に向けた取り組みについてご理解いただく一助となり、あらゆるステークホルダーの皆様との対話並びに新たな価値創造の共創の契機となれば幸いに存じます。

対象範囲 株式会社トピア（一部、グループ会社を含む）

報告対象期間 2025年4月～2026年3月

発行時期 2026年7月

参考にしたガイドライン GRIスタンダード

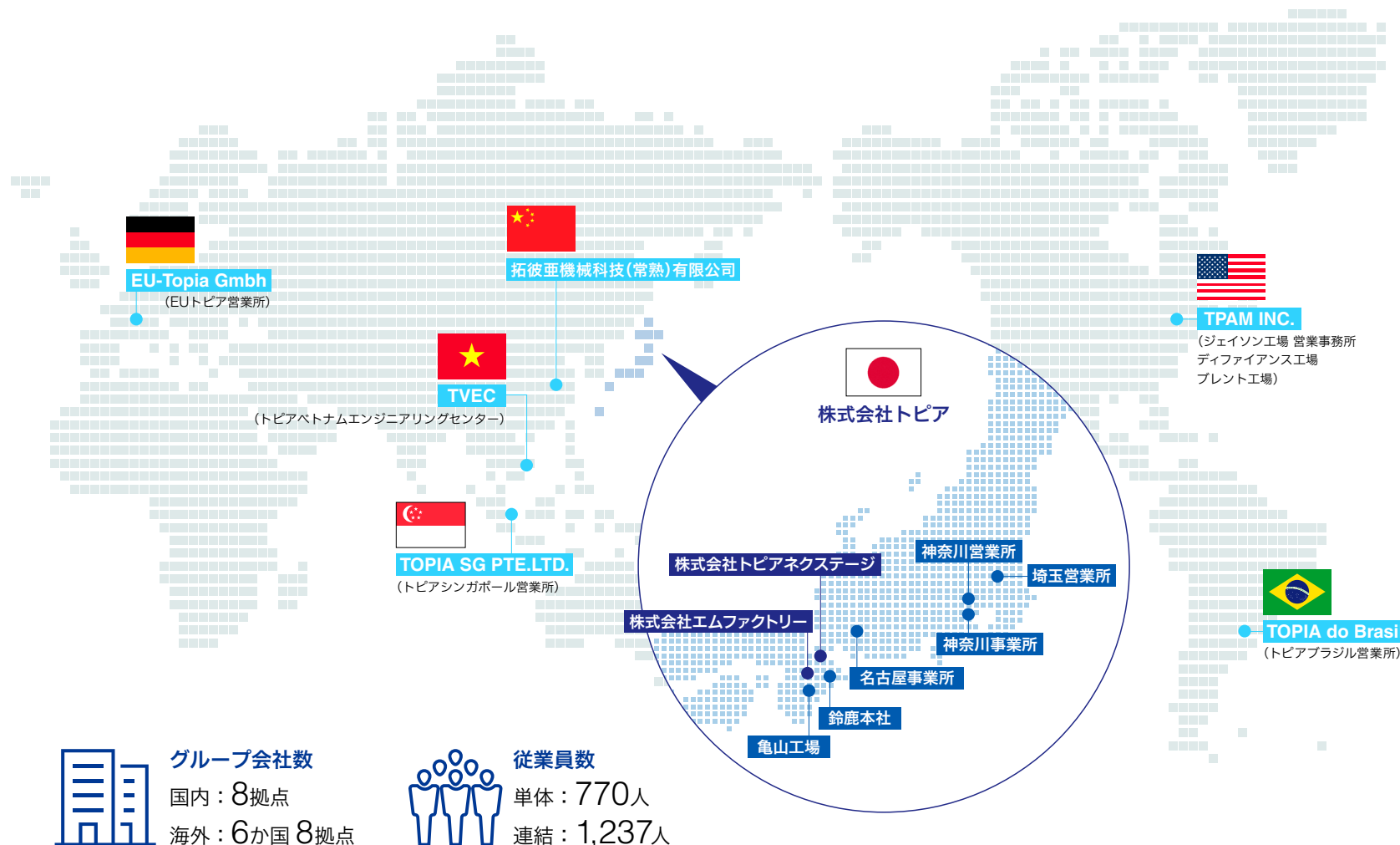
Our Business トピアの事業

トピアグループは自動車・航空機・電気製品をはじめとする幅広い分野で、企画・設計段階から製造に至るまで、一貫してお客様のモノづくりを支援しています。

最新鋭の設備やデジタル技術を活用した設計・解析技術を駆使し、複数の部門が連携して開発を進めるコンカレントエンジニアリングを推進することで品質向上と開発期間の短縮を実現しています。

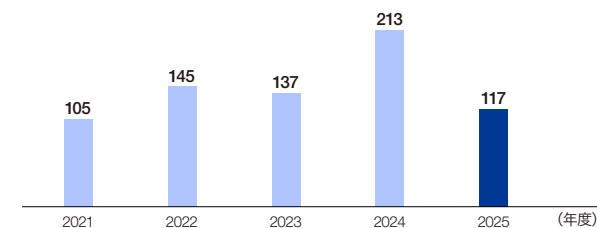


トピアグループは自動車・航空機・電気製品をはじめとする幅広い分野において、モノづくりに携わっています。



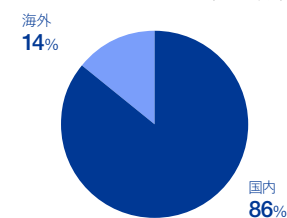
株式会社トピアの業績の推移(単体)

売上高 (億円)



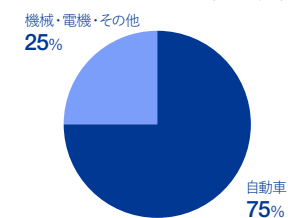
地域別売上高構成比

(2025年度)



市場別売上高構成比

(2025年度)



会社概要

本社所在地：三重県鈴鹿市

設立年月日：1973年8月16日

売上高：212億円(連結) ※2026年3月実績

Top Message

トップメッセージ



事業領域の拡大と効率化を追求し、
サステナビリティ経営を浸透させて
トピアグループの企業価値を
高めてまいります。

代表取締役社長
佐々木 英樹

失敗を恐れない挑戦こそが、未来を創造する

社会を取り巻く環境は、目まぐるしいスピードで変化し、私たち企業に求められる役割もまた、日々進化を遂げています。地球規模の課題から地域社会のニーズまで、持続可能な未来への貢献は、もはや企業活動の根幹を成すものだと、強く感じています。

変化を恐れず未来を切り拓く

世界情勢が大きく変動する中、現在の市場環境においては、物価高や急激な為替変動が大きな課題だと捉えています。輸出入の双方に絡むビジネスでは為替変動が一定程度相殺される側面もありますが、調達・製造・販売が国内で完結する事業においては収益への影響が大きく、厳しい状況が続いています。このような環境変化は今後も続くとしており、中長期的な視点で、私たちは果敢に対応策を講じていきます。

こうした環境下において、当社はこれまで主力であった自動車関連事業に加え、次世代の産業を支える精密機器分野、そしてドローンやAIといった先端技術を活用した社会課題解決分野への投資を積極的に進めてきました。これは、人手不足を

はじめとする日本の社会課題の解決に貢献できる分野に、私たちの技術と情熱を注ぎ込むとの考え方です。既存事業の基盤強化と新たな事業領域の拡大を推進することで、グループ全体の持続的な成長を実現していくことを目指しています。当社が2025年に三重県亀山市に新たに工場を増設したことも、こうした成長戦略の一環です。次世代に向け当社の競争力を一層強化し、将来を見据えた新たな価値創出につなげるための、重要な一歩だと確信しています。私たちはこれからも、変化を恐れず、未来を切り拓くための挑戦を続けていきます。

チャレンジ精神を核とした人財育成方針

当社では、未来を切り拓くのは「人」とであるという確固たる信念のもと、人財育成を最も重要な経営課題の一つと位置づけています。私たちは社員一人ひとりに、まず「何を達成したいのか」という具体的な目標を持つことを促しています。「何のために働き、どのような人生を歩みたいのか」を自ら考え抜くことこそが、自身の成長、そして働く喜びにつながると信じています。当社の経営理念の一つに、「チャレンジ精神」があります。たとえば、社員から新しいアイデアや挑戦の提案があった際、私は原則として「NO」とは言いません。まず、やってみる。

挑戦をすることが、私たちの風土そのものです。もし失敗したとしても、やり方を変えればいい。大切なのは、一步を踏み出すこと、そこから学びを得ることです。挑戦を後押しすることが、若い社員の新たな発想を育み、人として、組織として、そして会社として強くなる原動力になっています。私自身、中国の工場設立時には、財務面や市場面でのリスクを理由に多くの反対意見がありましたが、将来を見据えて挑戦を決断しました。こうした挑戦を後押しする風土は、当社の経営理念を基盤として、半世紀を超えて受け継がれています。社員一人ひとりが主体的に挑戦し、成長できる環境を提供することで、これからも「人」の力を最大限に引き出し、未来を創造していきます。

持続可能な未来の実現に向けて

持続可能な社会の実現は、社会的な責任であると同時に、新たな価値創造の大きな機会でもあります。

当社は、この認識のもと、ESGの各側面を重視し、「私たちができることを着実に、そして誠実に積み重ねる」という姿勢でサステナビリティ経営を推進しています。

環境面では、資源の有効活用と廃棄物の削減を基本方針とし、常日頃より、無駄をなくす考え方を大切にしています。

社会面では、価値観を共有できるパートナー企業の皆様との協業を重視し、互いに成長できる関係づくりに力を入れています。

ガバナンス面では、持続可能な企業として社会からの信頼に応えるため、内部統制の強化にも力を入れています。当社グループの10年後の姿として、私たちの製品を全世界に供給し、社会の発展に貢献している姿を思い描いています。その実現に向けて、当社はすべての活動の根幹にあるパーパス、「豊かな未来の実現に向けて 変化・要求に挑戦し続けます」を胸に、若い世代やこれから仲間となる皆さんとともに、人と地球の未来に貢献できるモノづくりへの挑戦を続けてまいります。



Value Creation Model 価値創造モデル

トピアグループは、試作品の開発・製造等を通じて自動車業界をはじめとした、世界中の多種多様なモノづくりの発展に貢献することを目指しています。



PURPOSE 豊かな未来の実現に向けて
変化・要求に挑戦し続けます

ビジネスモデルの特長

当社は、サステナビリティ経営を中核として、企業価値の向上を図るとともに、3つの体制と6つの強みを実践することで、モノづくりの発展と持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。



顧客ニーズに短納期で対応

常にお客様の様々な要求に応えることを追求します。社内の経営資源を最大限に活用し、品質、コストはもちろん、短納期で製品を提供し、お客様に喜んでいただくこと。これがトピアのミッションです。



エンジニアリングから小ロット量産まで ワンストップ提供

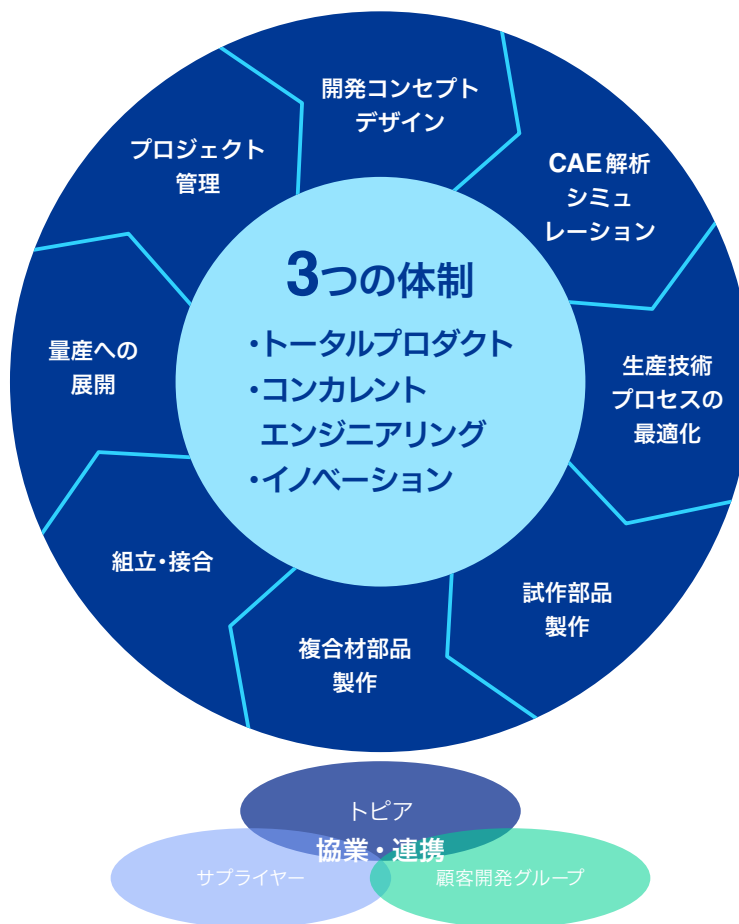
これまでにないモノを「カタチ」にする『試作品』の製造にとどまらず、設計・デザインから製造、さらに自動車であればホワイトボディ（Body in White）まで、ワンストップで提供することが可能です。また、様々な小ロットの製品を量産する体制も構築しています。



新たなモノを創造するチャレンジ精神

経営理念の一つである「チャレンジ精神」、今日のトピアは失敗を恐れず困難な技術的課題、未知の領域へ挑戦し、これらを解決・克服してきた結果です。今後の成長も、創業以来変わらぬ「チャレンジ精神」を実践することにほかなりません。

ビジネスモデルを加速させる6つの強み



高難度の製品を実現する最新設備

世の中にまだ存在しないモノを「カタチ」にするため、世界中の設備メーカーが提供する最新設備を積極的に導入。より高い品質と高難度な製品の生産を実現し、お客様の多様なニーズに応えていきます。



卓越した技術力

今日の企業成長の基盤にあるのは、成形技術、溶接技術、製品の軽量化技術など、他社を凌駕する様々な技術により、お客様の要求に応じてきたことです。高度な設備と技能者を有することで、新たなモノづくりを通じお客様へ価値を提供していきます。



国内外メーカーとの強固なネットワーク

創業以来、自動車をはじめ幅広い市場、多くの国々においてお客様の要求に応じてきました。この結果、グローバルにビジネスを展開し、多くのお客様と信頼関係を構築することができました。これを経営基盤として、さらなる企業成長を目指していきます。



Sustainability Management

サステナビリティ経営

基本的な考え方

トピアは社会との調和を重視し、持続的な成長と発展を目指しています。その実現に向けて、サステナビリティ経営を企業の重要な社会的責任と位置づけています。気候変動や人権、地域社会との共生など複雑かつ変化する課題に真摯に向き合い、ステークホルダーとの対話と共創を大切にしています。誠実かつ透明性の高い企業経営を通じて、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を同時に追求してまいります。

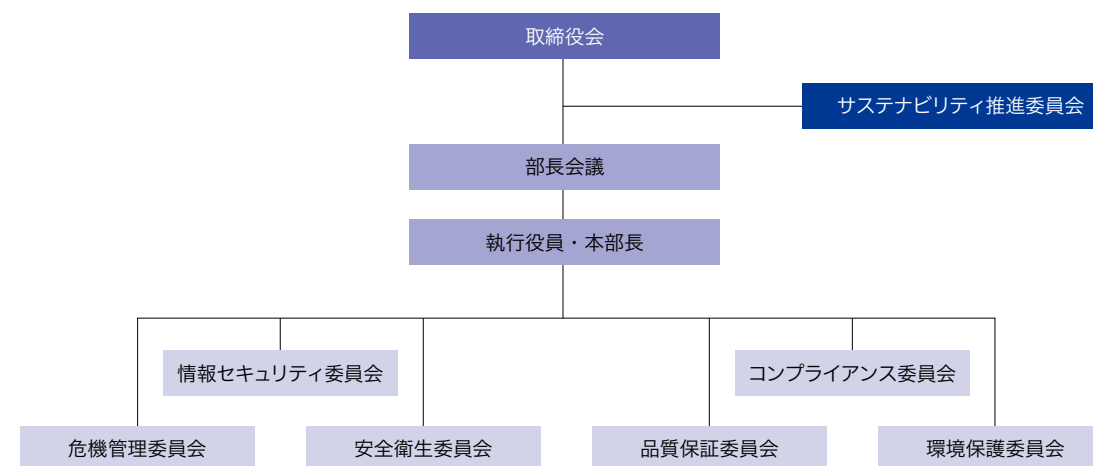
サステナビリティ基本方針

- 1. 環境保全への貢献**
事業活動を通じて、CO₂排出量の削減、省エネルギー、廃棄物の削減と再利用の促進、生物多様性の保全など、地球環境の保護に取り組みます。さらに、環境に配慮した製品・サービスの提供を通じて、持続可能で人と自然が共生する社会の実現に貢献します。
- 2. 社会との共生**
地域社会の一員として、事業活動および社会貢献活動を通じて、地域社会の活性化と人々のより豊かな生活環境づくりに貢献します。
- 3. 新たな価値の創造**
常に革新を追求し、新技術とお客様の期待を超える製品・サービスを創出するとともに、社会課題の解決と持続可能な未来の実現に積極的に貢献します。
- 4. 人財育成と活躍推進**
お客様の課題に挑む力と、考える力を兼ね備えた人財を育成し、企業と社会の双方に貢献することを目指します。社員が成長と誇りを実感できる働きがいのある環境を整備します。
- 5. ガバナンス体制の強化**
法令をはじめとする社会規範を遵守し、透明性・健全性のある経営体制を構築します。全てのステークホルダーの信頼に応え、持続可能な成長を支えるガバナンス体制を強化します。

サステナビリティ推進体制

トピアは、サステナビリティ経営推進のため、2021年7月に代表取締役社長を最高責任者とする「サステナビリティ推進委員会」を設置。同委員会のもと「危機管理委員会」から「環境保護委員会」までの6つの専門委員会を置き、各委員会が担当課題の目標設定から進捗管理までを担い、実効性ある改善に取り組んでいます。これらの活動はサステナビリティ推進委員会が全体を定期的に確認するなど統括・監督することで、グループ全体の継続的な改善と実践を推進しています。

サステナビリティ推進体制図



Materiality

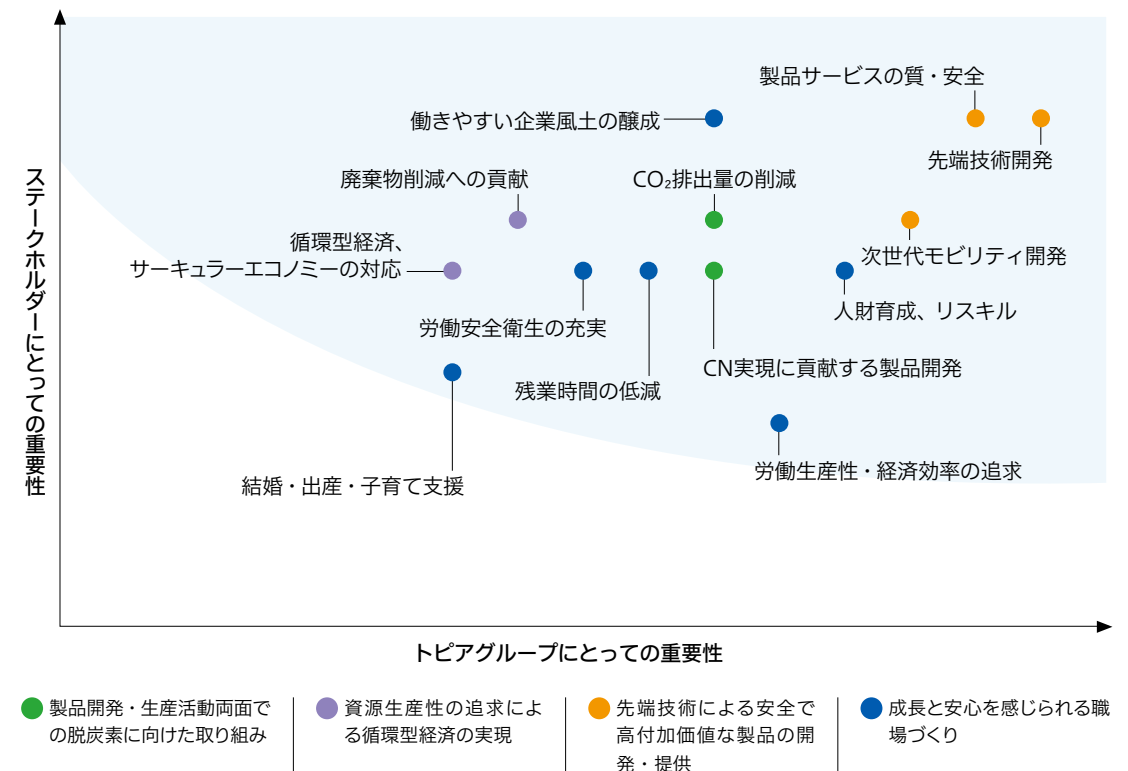
マテリアリティの特定

トピアグループは2023年度、事業活動と社会課題の関連性を明確にし、企業価値と社会価値の両立を目指すため「企業と社会の持続的成長」に資するマテリアリティを特定。具体的には①当社が取り組むことが意義を持ち成果を挙げられる環境・社会課題、②試作品の開発・製造で取り組める課題の2視点で検討し、4つの項目を選出。これらを基に持続可能な社会の実現に貢献します。

マテリアリティ特定プロセス

- STEP 1 社会課題の抽出・絞り込み**
 主要ガイドラインであるGRIスタンダード、SASBスタンダード、国連SDGsを参考に100を超える社会課題を抽出。社内外情報を参考に、特にトピアグループにとって関連性の高い項目をリストアップ。
- STEP 2 自社およびステークホルダー視点での評価実施**
 客観性と多様性の面から幹部社員と従業員約50名にアンケート形式で社会課題の重要度評価を実施。自社視点では中長期的に経営計画に影響を与える可能性を挙げ、ステークホルダー視点では自然環境への影響、取引先や地域社会からの要望を考慮し評価を実施。
- STEP 3 マテリアリティの策定**
 社長レビューを反映した内容を踏まえ、部長会議などの社内議論を経て、重要度が高いと判断したマテリアリティマップを策定。
- STEP 4 マテリアリティの特定**
 最終的には取締役会においてマテリアリティを4つに絞り込み決定。

マテリアリティマッピング



トピアの重点課題(マテリアリティ)

トピアグループは2023年度に特定した社会課題を踏まえ、事業活動の社会的影響を見直し課題解決に取り組むことで、世界のモノづくりの進化と持続可能で豊かな社会の実現を目指します。

1



事業活動を通じた 脱炭素社会への貢献

事業活動に伴う温室効果ガスの排出削減に向けて、再生可能エネルギーの導入を積極的に推進し、カーボンニュートラルの実現を目指します。

2



循環型経済への貢献

事業活動で発生する廃材・鋼材のリサイクルに取り組んでいます。また、ペーパーレスやDX化への取り組みを加速させ、循環型社会の実現に向け貢献していきます。

3



先端技術による安全で 高付加価値な製品の提供

従業員の技術力向上に向けた教育体制と環境を整備し、高付加価値な製品・サービスの創出を通じて、様々な産業分野における安全性能の向上に貢献します。

4



成長と安心を感じられる 職場の実現

従業員が安心して働ける環境づくりは、事業活動の基盤となる重要な取り組みです。環境整備にとどまらず、従業員一人ひとりの成長を促す多様な取り組みを進めていきます。

マテリアリティに基づくKPIと目標値

マテリアリティ	リスク・機会認識	KPI / 中期目標	戦略	2025年度の実績
事業活動を通じた 脱炭素社会への貢献 	【リスク】 ・業界対応遅れによるコストの増加・信用低下 【機会】 ・新技術開発における事業拡大・顧客の信用向上	Scope 1・2排出量 ・2030年度:21%削減(2021年度対比)	自社工場・事務所におけるCO ₂ 排出量削減推進 2024年度からの7年間で年率3%総量削減	 2021年度比 8% 増加 (6,009t-CO ₂)
		Scope 3排出量 ・ZAS購入率10%以下の継続	ZAS材リサイクル強化、新規購入最小化	 6.8%
		再生可能エネルギー比率 ・2030年度:30%増加(2021年度対比)	自社消費電力の再エネ由来電力への切替	 2021年度比 18.1% 増加
		車両EV率(営業車両) ・2030年度:HV、EV率100%	自社営業車のHV、EV車への切替推進	 81.6%
循環型経済への貢献 	【リスク】 ・大量廃棄継続による事業コスト増、顧客の信用低下 【機会】 ・産業廃棄物削減、資源有効活用を通じた循環型経済への貢献	廃棄物発生量、砂リサイクル率 ・95%以上の継続	試作金型砂材リサイクルの強力推進、廃棄量最小化	 99.2%
先端技術による安全で 高付加価値な製品の提供 	【リスク】 ・不適合品による顧客の信用低下 【機会】 ・安全・高品質製品の開発による事業拡大、顧客の信用増加	従業員一人当たり付加価値額 ・2030年度:5%増加(2021年度比)	高付加価値な事業を通じた利益最大化	 2021年度比 1.5% 増加
成長と安心を感じられる 職場の実現 	【リスク】 ・従業員エンゲージメント低下による生産性低下、採用難 【機会】 ・エンゲージメント向上による生産性向上、多様な人財活躍による課題対応力向上	女性管理職比率 ・2030年度:20%	制度導入、社内研修推進	 6.8%
		男性育休取得率 ・2030年度:85%		 60.0%
		労働災害件数(1日以上休業を要するもの) ・2030年度:0件	社内安全衛生のさらなる向上	 0件
		時間外労働時間 ・2030年度:25時間/月	DX等による業務効率化	 8.8時間
		日本語能力試験認定率(N3以上) ・2030年度:75%	外国人従業員・実習生の日本語能力試験取得サポート	 43.5%

Environment

環境

トピアグループは、地球環境を持続可能な状態に保つことが人類にとって最も重要な課題であると強く認識しています。事業活動を通じて、環境負荷の低減に積極的に取り組み、地球と人類の未来に貢献していきます。

環境保護委員会の取り組み

環境保護委員会は、ISO14001：環境マネジメントシステム(EMS)の維持推進とエネルギー管理を重要なミッションとしています。EMSの運用強化やエネルギー使用量の調査・改善を進め、温室効果ガスの削減に努めています。



ISO14001登録証

環境パトロールの実施

毎月、環境・安全・5Sの観点から環境パトロールを実施し、その結果を全社で共有するとともに、是正・改善策を迅速に実行し、職場環境の維持と意識向上に取り組んでいます。

さらに、工場ごとの電力使用量の実績や推移を把握し、エネルギー管理士の助言を得ながら、エネルギー消費の見える化や省エネ活動の活性化を図っています。



環境パトロール

環境関連法規の遵守

トピアグループは、廃棄物処理法、労働安全衛生法の化学物質規制、騒音・振動規制法、フロン抑制法、地球温暖化対策法など、関連する環境法規を把握し、遵守体制の維持・強化に努めています。社内パトロールや、内部・外部監査を通じて遵守状況を定期的に確認し、法令違反の未然防止と継続的な改善を推進しています。

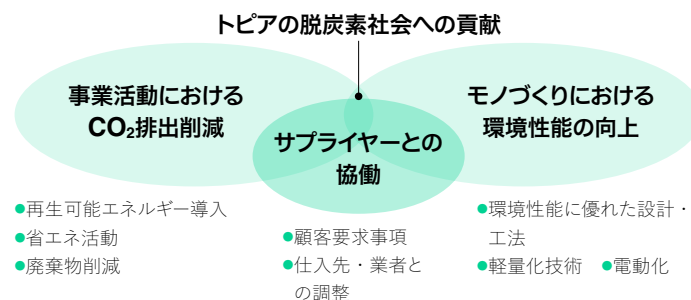


エネルギー管理士による診断

脱炭素社会の実現に向けた取り組み

基本的な考え方

トピアグループは、地球温暖化の進行により気候変動によるリスクが高まる中、脱炭素社会の実現が企業にとって重要な使命と位置づけています。気候変動対策を重要な責務と捉え、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。グループ内の再生可能エネルギーの導入推進や生産工程の見直しに加え、サプライチェーン全体での環境負荷低減を目指していきます。すべてのステークホルダーとの協働を通じ、「社会と共生する企業」として、次世代に誇れる社会を築くべく持続可能な価値創出を目指すとともに、カーボンニュートラル社会の実現に挑戦し続けます。



再生可能エネルギーの導入

トピアグループは、工場で使用するエネルギーの一部を再生可能エネルギー由来とすることで、温室効果ガス排出量の削減を進めています。国内主力となる鈴鹿本社工場では、自家消費型の太陽光発電設備を順次増設し、2025年度には約860t-CO₂の温室効果ガスの削減を図りました。今後も継続して自社拠点に太陽光発電設備などを設置し、2030年度までに再生可能エネルギーによるCO₂削減量を高め、環境負荷の低減とBCP（事業継続計画）への対応を両立する体制の構築を推進していきます。これらの取り組みを通じて、持続可能な未来への責任を果たし、社会から信頼される企業を目指します。



太陽光発電設備

工場における省エネ推進活動

省エネ推進活動を通じて、エネルギー管理士の提案や指導をもとに、工場内の省エネルギーに取り組んでいます。具体的には、空調設備や生産設備の効率向上、コンプレッサーの設定圧力および運転時間削減、工場内のエアリーク調査・補修、エアリーク配管システムの改善など、エネルギー消費の最適化を図っています。さらに、本社のEMS推進担当やエネルギー管理士が国内各事業所・営業所を訪問し、継続的な改善活動を支援するとともに、全体でのCO₂削減活動を推進しています。また、全従業員が自主的に環境に配慮した行動を実践できるよう指導・教育にも力を入れ、日々の業務における省エネ意識の向上を目指しています。



エアリーク調査

循環型経済の実現に向けた取り組み

基本的な考え方

トピアグループは、行動指針の中に「循環型社会構築への貢献」を掲げて、環境負荷低減を目指した効率的な資源活用やリサイクルを推進しています。限られた資源を有効に利用するため、原材料の投入量を抑制する生産設備の導入をはじめ、資材の再資源化を通じて、製造過程で発生する廃棄物の抑制に取り組んでいます。



試作金型に使用する材料の循環

プレス成形金型には、量産部品を製作する量産金型と試作部品を製作する試作金型があります。量産金型は鉄、鋳物などの硬い素材を使用しますが、試作金型の場合、柔らかい亜鉛合金材(ZAS)を用い、自社の溶解炉にて铸造しています。ZAS铸造は、創業当初より自社で行い、ZASの再利用も継続しています。

また、铸造工程で必要となる砂は、硬化剤の影響で固形となるため、従来は産業廃棄物として処理していましたが、2012年に铸造用砂搅拌机を導入し、砂の再利用を現在も継続して廃棄物削減に寄与しています。



铸造用砂リサイクル用搅拌机

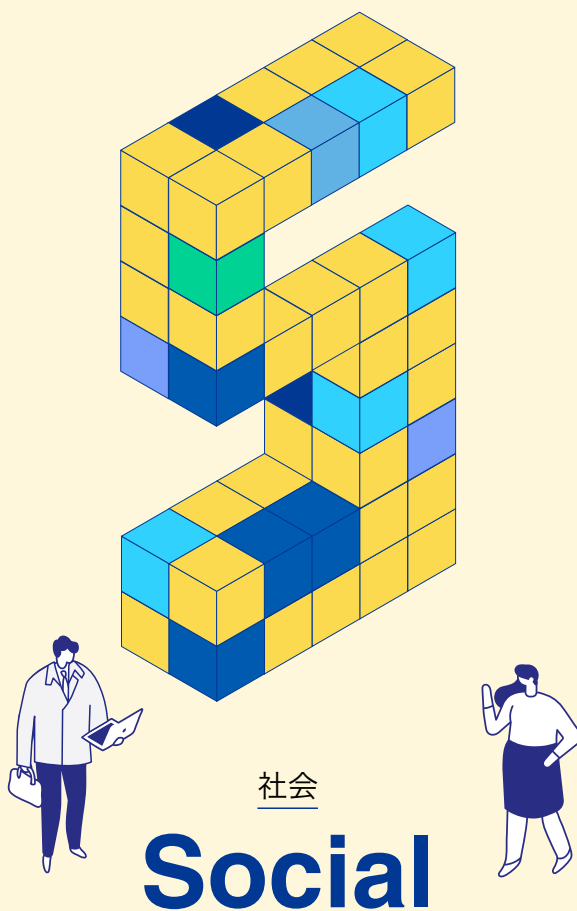
ペットボトルキャップの回収活動

当社では、環境保護と社会貢献の両面からペットボトルキャップの回収活動を実施しています。回収したキャップはリサイクル資源として有効活用されるとともに、その換金収益は開発途上国の子どものワクチン支援に充てられています。資源循環の促進と社会的課題の解決を両立した取り組みとして、持続可能な社会の実現に貢献しています。

4年間の本活動を通して、ペットボトルキャップを累計で415kg回収しました。これにより、208人の子どもたちにワクチンを届けることができました。



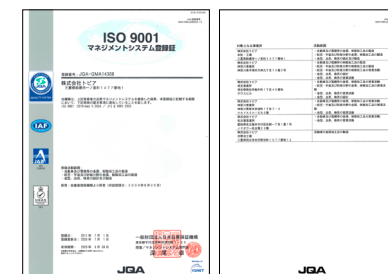
ペットボトルキャップ寄付証明書



トピアグループは、地域社会の一員として社会的責任を自覚し、事業活動や社会貢献を通じた積極的な交流を図ります。これにより地域社会の活性化と人々の豊かな生活環境づくりに取り組み、多様なステークホルダーと連携し、持続的かつ幅広い社会貢献を目指します。

製品安全性確保に向けた取り組み(品質保証)

トピアグループは、常に技術力およびモノづくりに関わる業務品質の向上に努めています。お客様に満足いただける安全・高品質な製品を提供するため、グループ共通の品質意識のもと日々活動しています。特に安全性確保を最優先課題と位置づけ、全社一丸で取り組んでいます。また品質マネジメントシステムの認証取得と継続的な更新を通じ、すべてのステークホルダーから信頼される企業を目指していきます。



ISO 9001登録証

定期品質パトロールの実施

品質保証部を中心に、各製造工程の品質管理に加え、作業手順や5S、作業環境、変化点の確認を目的としたパトロールを定期的実施し、品質改善事例を全社で共有しています。また、不適合データを分析し、再発防止および未然防止に取り組んでいます。これにより、さらなる品質向上を図っています。



品質パトロール

品質保証に向けた仕組みづくり

製造工程における品質保証を徹底するため、各工程の品質手順を明確化・標準化しています。管理項目の見える化によって作業のバラツキを抑え、安定した製品品質の実現を目指します。また、定期的な監査を通じてシステムの有効性を検証し、改善活動を推進。継続的な改善に全社で取り組んでいます。



品質標語表彰式

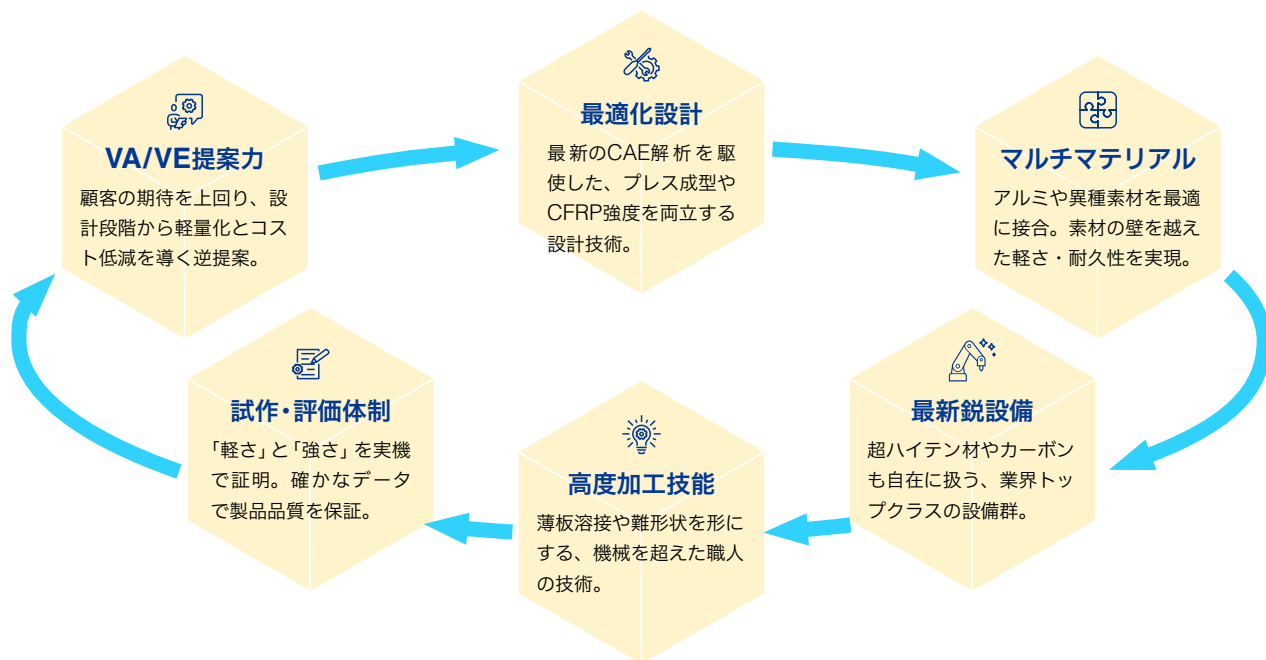
高付加価値製品の開発

失敗を恐れず未来を創る「チャレンジ精神」

お客様をはじめとする様々なステークホルダーの声をトピアグループの意思決定に反映させ、業務の革新や品質向上に活かしています。ステークホルダーとの相互理解と協働を深めることで、さらなる価値創出に向けた継続的な取り組みを積極的に推進していきます。

多彩な技能者の育成

技能研修制度、業務に必要な公的資格取得支援や、外部教育機関の活用、OJTに注力しています。難易度の高い仕事については、物理的、技術的な課題を克服し、「トピアブランド」としての高付加価値製品を提供するため、国内外で技能者の育成に一層努めています。



亀山工場の稼働が開始しました

三重県亀山市で、半導体関連設備の量産を主とした新しい工場が稼働を始めました。量産に特化した最新設備を整え、お客様の品質ガイドラインに準拠しています。さらに新工場では、将来の基準高度化・厳格化にも対応可能な体制を整えています。すべての製品は量産独自の手順に沿って厳格に管理されており、資材の出庫から、製造、品質管理、完成品の保管まで、一連の工程を管理できる仕組みとなっています。また、試作段階のモノづくりだけでなく、生産の立ち上げから量産までを一貫してサポートする「ラインビルダー」としてのトピアの力も、この新工場の立ち上げに十分に発揮されています。



成長を実感する職場づくり(人的資本経営)

一人ひとりが成長を実感できる環境づくり

トピアグループは、価値創造を通じて社会課題の解決に取り組むため、多様な個性やスキル、経験を持つ人財の育成を推進しています。日々の業務や教育・研修制度など多様な機会を通じて自ら成長し、それを実感できる職場環境づくりに注力しています。

部門責任者との定期面談や目標設定を通じ一人ひとりの成長を支援し、研修プログラムやキャリア支援を強化。社員の成長実感を醸成し、組織へのエンゲージメント向上を目指します。

	階層別教育		基礎～応用力	テーマ別教育	全社共通研修 (国内外子会社を含む)	外部	OJT							
上位管理職	新任部長研修	評価研修 考課者研修	品質製造管理教育 環境保護推進教育 労働安全衛生教育	人権・ハラスメント研修 防災・危機管理研修 サステナビリティ研修 スキルアップ研修	メンタルヘルス研修 安全衛生研修	コンプライアンス・リスクマネジメント研修 情報セキュリティ研修	公的資格制度 技術講習	上司や先輩社員による日常的な指導						
	新任管理者研修													
中堅管理職	リーダー研修	実習生教育												
	中堅社員研修													
一般	部下育成研修	実習生教育												
新入社員	ビジネスマナー研修													
	フォローアップ研修													

成長を実感できる職場づくり

トピアのパーパスである「豊かな未来の実現に向けて 変化・要求に挑戦し続けます」のもと、“人”を中核に据え、未来を創造する重要な資本として「人的資本経営」を積極的に推進しています。

社員の一人ひとりの成長こそが、企業発展に直結すると確信しており、教育に注力しています。

変化が激しい現代では、従来の常識が通用しない場面も増えています。そこで当社は、社員が成長を実感できる環境を作る為に今年の4月から教育課を設置し、研修やスキルアップ活動を通じて個々の成長を促しています。

創業以来の経営理念「野鳩の精神」「救急病院の責任感」「チャレンジ精神」は、従業員が自発的に行動し、チームワークを醸成する為の揺るぎない指針です。この理念を体現すべく「人づくり」を通じ、変化に強く、新たな価値を創造する組織を目指します。

地域未来牽引企業としての自覚を持ち、当社は人財育成に重点を置くことで、より良い地域づくりに貢献してまいります。



専務取締役
財務本部
企画管理本部
小林 龍浩

成長を実感する職場づくり(人的資本経営)

人権の尊重

トピアグループは、人権尊重を重要な責務と位置づけ、「トピアグループ サステナビリティ・ガイドライン」を制定し、役員と従業員が一体となって遵守しています。ガイドラインでは、“人権尊重と公正な労働環境”に関する方針を掲げ、全社的に取り組んでいます。

その内容は、グローバルに事業を展開する企業として、「世界人権宣言」や「ビジネスと人権に関する指導原則」など国際的に認められた規範を踏まえ、策定・運用。児童労働禁止、適正賃金支払い、法定労働時間遵守、公平な採用・評価、多様性尊重、差別・ハラスメント根絶に努めています。従業員一人ひとりが人権意識を高められるよう、定期的に研修や啓発を行い、持続可能な社会の実現に貢献しています。



ダイバーシティ推進

トピアグループでは、多様な従業員が活躍できる企業風土の醸成を目指し、女性の活躍推進、障がい者雇用、外国人従業員の活躍推進やLGBTQ+への理解促進など、様々な取り組みを進めています。従業員一人ひとりが互いの人格・個性を尊重するとともに、人種、宗教、国籍、性別、年齢、障がいの有無などによる差別がない企業風土の醸成を進めています。

労働安全衛生・健康経営

トピアグループは全従業員と地域社会の安全・健康を守るため、安全衛生管理を徹底し、安心して働ける職場環境づくりに努めています。法令資格が必要な設備について、運搬時の落下・転倒防止や外部機関によるリスクアセスメント体制強化を推進。心身の健康が業務向上に重要と考え、ストレスチェックや長時間労働対策、健康増進施策を推進しています。

人権デュー・ディリジェンス

2024年度に実施したアセスメントに基づき、グループ内において人権リスクを低減するため、人権に関する規定類を定め整備を行いました。



取り組みの全体像

健康経営システムの導入に向けて

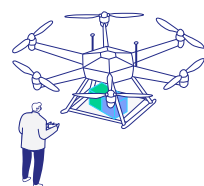
従業員の多様な働き方を推し進めるべく、育児や介護規定を更新。育児世代のキャリア形成や、快適な職場環境の維持向上に向け、仕事と生活の調和を図るべく継続的な改善に取り組んでいます。

残業時間の抑制だけでなく、特に従業員の健康管理への取り組みとして、希望者に対して保健師との面談の場を積極的に設けています。



メンバー(左から)

- ① 黒瀧 浩文 エンジニアリング部 エンジニアリングソリューション課(プロジェクト統括アドバイザー)
- ② 吉田 慎吾 エンジニアリング部 生産技術課 技術開発(プロジェクトリーダー)
- ③ 板谷 琴 エンジニアリング部 エンジニアリングソリューション課(エンジニア)
- ④ 本田 昌司 エンジニアリング部 エンジニアリングソリューション課 次長



特集

未知への挑戦 純国産ドローン開発

ゼロからの挑戦

黒瀧 純国産ドローン開発のきっかけは、エンジニアリング部の執行役員からの「かつてない新しい事業をやろう」という言葉からでした。そこで、神奈川事業所で扱っている炭素繊維を使って、ドローンを純国産で作れないかという話が出ました。

話が進む中「国内にかつてない、大型のドローンを作る」という目標が決まったことは、大きな挑戦の第一歩でした。開発メンバーは各部署から人を募り、手探りの状態でプロジェクトが始まった形でした。

本田 プロジェクトリーダーについては、以前、EVコンセプトカー製作プロジェクトを率いたリーダーに引き続き担当してもらってはどうかとの提案もありましたが、人財育成の観点から、今回は違う人に焦点を当てました。そこで吉田さんに決まったわけですが、吉田さんはリーダーに任命された経緯を覚えてますか？

吉田 はい。担当執行役員から直接、声をかけてもらったのがきっかけです。私が炭素繊維を使った製造現場にいたことと、営業経験もあるというのも重なって、プロジェクトリーダーに抜擢されました。

黒瀧 プロジェクトリーダーになるのは初めてと聞きましたが、不安はありませんでしたか？

吉田 そうですね…。最初は「何から始めればいいのか？」という不安な状態でした。でも、上司や同僚と話がしやすい風通しの良い環境も幸いし、特に先輩方に色々相談させていただきプロジェクトを円滑に進めていくことができました。

本田 吉田さんがリーダーに決まったあと、プロジェクト統括アドバイザーとして黒瀧さんが加わりました。本社側の工場を動かす必要もありましたので、本社の担当者にも入ってもらい、

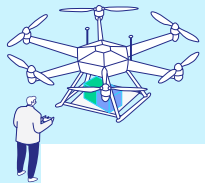
さらに各部門、生産管理、調達、製造といったメンバーで体制を固めたわけですが、吉田さんは、実際にプロジェクトを動かしてみてどうでしたか？

吉田 それぞれの分野で活躍されている方が集まり、各々の得意な部分を存分に発揮してもらうことに重点を置きながら進めた結果、一つの目標に向かう連帯感の重要性和牽引する難しさを実感することができました。

難題にぶつかっても諦めない

吉田 ドローンは会社にとって初の取り組みだったこともあり、製作にあたっては細かな情報収集が大変でした。普段の仕事では二輪や四輪のレース部品の製作に関わることで多いので、強度や軽量化といった経験を活かしながら取り組みました。しかしながら、走るよりも飛ぶために必要な「プロペラ」の知識がまったくなかったことが大きな壁でした。そこで飛翔体を研究する株式会社ドローン技術研究所の方々の知見を借りながら、短い期間の中で、全員で試行錯誤を繰り返しました。

本田 「ジャパンドローン2025」への出展が既に決まっていたので、逆算しても開発期間が5か月しかなく、みんなで手探りの状態で製作して、試験飛行場にプロペラを持ち込んでテストも行ってと、とにかく必死でした。初めての経験で多くのことを吸収し、成長も感じられたのではないのでしょうか。



黒瀧 テストは株式会社ドローン技術研究所の方々に教わりながら、図面を描き、部品を作って、即スタートというスピード感でした。解析ソフトや計算である程度の予測はできるんですが、実際とは異なります。飛行テストで失敗しては、その都度改良をするといった繰り返しでゴールを目指しました。現場の努力、株式会社ドローン技術研究所の方の的確なアドバイスときちんと試験ができる環境、そして運。これらの要素がうまく絡み合ったんだと思います。

本田 テストも大変でしたけど、実はほかに大きな山場もありましたよね。当初、機体の組み立ては外部の方をお願いしていましたが、組み立ての2か月ほど前に断られたため、急遽内製での対応を余儀なくされました。まったく想定していなかった事態に混乱を極めました。当社経営理念の一つ「チャレンジ



精神」の姿勢で全員が前向きに取り組みました。

吉田 私は、組み立ても内製化となった時に「できないのではないかな」というより「なんかやれそうだな」と感じました。その気持ちを貫いたことが結果的に成功を導いたのかなと。できる、できない、ではなく「まずやってみよう」の風土があるトピアでだからこそ、一丸となってやり遂げられたのだと思います。

若手の挑戦と成長が循環する環境

本田 ありがたいことに「ジャパンドローン2025」での展示は予想以上に話題となりました。その際に2026年の出展にもお誘いいただいたので、次回も出展する予定です。引き続き話題を集める展示を目標に、若手の板谷さんに主担当になってもらい、着々と準備を進めています。ところで、板谷さんはプロジェクトに携わってみてどうでしたか？

板谷 私が入社1年目というのもあって、色んなことを難しく捉えて悩んでしまうことが多かったです。でも、すぐ相談できるよう上司が隣にいてくださったのもあって、だんだんと“新しいことに挑戦させてもらっている！”という感覚が大きくなり、嬉しさにつながっていきました。

本田 特に印象に残っていることはありますか？

板谷 樹脂を基材とする3Dプリンターを使うことになり、知識がなかったので上司に根掘り葉掘り聞いたのですが、実は上

司も3Dプリンターに詳しくないのが判明して、一緒になって調べたことです。それと、吉田さんや黒瀧さんも初対面から

すごく話しやすく、質問や相談にも細かくしっかりと答えてくれるので、とても働きやすい環境です。皆さんベテランなうえに日々前進してい

本田 はい。期待しています。板谷さんには展示会の準備だけでなく、多くの先輩のサポートも受けながら、金属・炭素繊維・樹脂といった、材料を選ばないマルチなモノづくりを目指して欲しいです。これからも、チャレンジしていきましょう。

板谷 色んなことを早くかららせてもらっているという実感があります。トピアで働き始めて、私は考えて行動に移していく仕事が向いていると気が付きました。経営理念の通り「チャレンジ精神」が根付いている環境だと感じています。今後も、どんなことでも、「まずはやってみよう！」の気持ちで仕事に取り組んでいきたいと思っています。



社会貢献活動

基本的な考え方

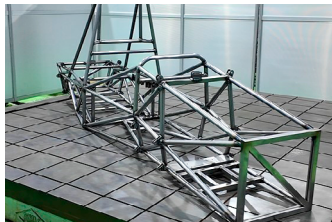
トピアは、1973年の創業以来、各拠点やグループ各社が立地する地域の皆様のご支援をいただきながら成長してまいりました。今後も社会的責任を果たすべく、環境保全・災害支援・人材育成・地域貢献など多様な分野で、地域社会としっかりと会話を重ね深めながら積極的に活動を展開し、「人と社会」が共に豊かに暮らせる持続可能な社会の実現に一層貢献していきます。

学生フォーミュラ支援(産学連携)

学生フォーミュラ大会は、参加する大学ごとにチームを組み、フォーミュラスタイルのレーシングカーを製作し、様々なレースを行うものです。1年間でフォーミュラカーの設計からパーツ製作を行い、企画力・技術力・動力性能を総合的に競い合います。学生は、実践的なモノづくりや自動車の開発工程を経験することができます。将来の自動車業界を支える人材を育てる目的で、私たちトピアは東京工科大学へ協賛、技術支援を行っています。

スポーツチームへの協賛

トピアは、三重県の様々なスポーツチームへ協賛し、積極的に活動を支援しています。2021年からはアトレチコ鈴鹿クラブ、伊賀FCくノ一三重、三重バイオレットアイリスなど幅広い地域スポーツに加え、SUBARU BRZ GT300のモータースポーツにも協賛を行っています。さらに、未来を担う子どもたちに向けた体験型イベントの企画・開催を通じて、心身の健全な育成と地域スポーツ文化の活性化に貢献するための活動を今後も継続していきます。



学生フォーミュラ車体製作



スポーツチーム協賛



ウミガメの保護と海の未来を守る、 海岸清掃活動

トピア本社のある、伊勢湾沿岸は古くからウミガメの産卵地として知られており、当社では地球環境の保全と生物多様性の保護に向けた取り組みとして、2025年より海岸清掃のボランティア活動に定期的に参加しています。昨年度は計5回の活動で、延べ163名の社員とその家族にもご協力いただき、多様なプラスチックごみの回収に努めました。今後も地域社会と連携を深めながら、持続的な環境保全活動に取り組んでまいります。



コーポレート・ガバナンス

トピアグループは、「経営理念」が企業倫理のバックボーンであり、コーポレート・ガバナンスを支える基盤であると考えています。この考えのもと、コーポレート・ガバナンスの要諦は「経営の健全性の維持」と「経営の効率性の向上」およびこれらを達成するための「経営の透明性の確保」にあるとの認識に立ち、「トピアコーポレート・ガバナンス」を策定しました。トピアは、実効的なコーポレート・ガバナンスの実現を通じて、法令違反、不正や不祥事等の企業価値を毀損するような事態の

発生を防止し、かつ、経営の最重要課題と位置づける長期的で安定的な企業価値向上のために、経済価値・社会価値のバランスを保ちながら、企業全体の存在感を高めることが重要と考えています。これらは企業としての使命を果たすことに資するものであり、トピアを取り巻くすべてのステークホルダーの利益にかなうものと認識し、コーポレート・ガバナンスのさらなる強化に向けた取り組みを推進し、より一層の充実に向けて不断の改善に努めていきます。



ガバナンス

Governance

トピアグループは、法令をはじめとする社会規範を誠実に遵守し、透明性・健全性のある経営体制を構築します。すべてのステークホルダーの信頼に応え、持続可能な成長を支えるガバナンス体制の強化・充実を不断に推進し、企業価値の向上を目指していきます。

財務ガバナンスの強化と持続的な企業価値の向上

財務部門では、グループ横断での部門間連携および情報共有の強化、内部統制運用のさらなる高度化、非財務情報を含めた開示の充実に加え、設備投資の意思決定プロセスの高度化や原価管理精度の向上が重要課題であると認識しています。これらに対し、財務情報の信頼性向上と迅速な開示体制の構築、J-SOXを含む内部統制の実効性向上、設備投資の投資判断・モニタリングおよび原価統制の強化、さらにはリスク管理の高度化を推進しています。今後は、透明性と説明責任を一層高めるとともに、経済価値と社会価値の両立を図り、持続的な企業価値向上に資するガバナンス体制の強化に取り組んでまいります。



財務本部 執行役員
篠木 洋一

コンプライアンス

トピアは、経営理念の実践を通じて企業価値の最大化を目指し、すべてのステークホルダーと良好な関係を築き、長期的かつ安定的な成長と発展を追求しています。「トピアグループコンプライアンス基本方針」を定め、国際社会から信頼される企業として、公正で透明性の高い経営を推進していきます。コンプライアンスを経営の根幹を支える重要課題と位置づけ、法令遵守にとどまらず、グループ内のすべての役員・従業員が企業の社会的責任を自覚し、率先して倫理に基づく行動を実践します。加えて、不正や不祥事の防止、知的財産権の尊重、お客様情報の厳正管理、反社会的勢力への断固たる対応を徹底し、人権尊重と安全で働きやすい職場環境の確保にも努めます。

腐敗防止への取り組み

トピアグループは、贈収賄、違法な政治献金・寄付、脅迫・強要・横領、マネーロンダリング、不正な国際送金、反社会的勢力への資金提供など、違法・不当な利益や便宜の供与を厳格に排除し、事業活動を行うすべての国・地域で腐敗防止に関する法令を遵守しています。

リスクマネジメント

トピアは、多様化するリスクを最小化するため、内部統制の一環としてリスクマネジメントの強化に取り組んでいます。事業活動を取り巻く様々なリスクを的確に把握・管理し、万一リスクが顕在化した際には、迅速かつ的確な対応で人的・経済的・社会的損害の最小化を図り、企業価値の維持・向上と社会的信頼の確保を強く追求していきます。

情報セキュリティの強化

トピアは、情報セキュリティポリシーを制定し、不適正な事案が生じた場合には、速やかな原因究明、再発防止、予防対策に努めるよう、リスク管理を徹底しています。

ドイツ自動車工業会が策定した情報セキュリティ評価基準に基づく認証(TISAX: Trusted Information Security Assessment Exchange)を取得し、国際的な情報セキュリティ水準を維持するとともに、従業員の継続的な教育と意識向上を図り、トピアグループ全体での情報セキュリティ管理の強化に努めています。



BCP(事業継続計画)の強化・推進

トピアは、災害時行動基準・事業継続計画を定め、災害発生時においても事業活動を維持しつつ従業員の身体・生命の安全を最優先に確保し、重要業務の継続・復旧への早期対応が可能な方針・手続き・運用体制を構築しています。毎年、定期的な見直しや防災訓練、救急講習を実施することで有事の際、誰もが円滑に対応できるよう取り組んでいます。

安否確認システムの導入

BCP(事業継続計画)の一環として、安否確認システムを導入しています。有事の際、従業員や家族の安否・被害状況を早急に把握し、必要な支援・指示が可能な体制を構築しています。



サステナビリティデータ(環境・社会)



環境

	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	
CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)				
	Scope1+2	6,928	7,725	6,009
	Scope1	1,293	1,426	1,071
	Scope2(電力)	5,635	6,299	4,938
ZASの循環				
	消費量平均値(t)	334.9	365.6	158.7
	購入率 再生塊(%)	8.6	8.0	6.8
	購入率 新塊(%)	—	18.5	—
鑄造用砂の循環				
	廃棄量(t)	29.7	29.0	12.9
	リサイクル率(%)	97.2	97.5	99.2



職場環境

	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績
育児休業取得率(%)			
 男性	38.5	63.6	60.0
女性	100	100	100
障がい者雇用率(%)			
	2.3	2.5	2.5
有給休暇の平均取得日数(日)			
	11.2	11.8	10.9
時間外平均労働時間(h)			
	23.4	25.7	8.8
労働安全衛生(国内)			
	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績
健康診断の受診率(%)			
	99.3	99.7	99.6
ストレスチェック受検率(%)			
	55.0	56.6	58.0